

オニト交配

紅こだま



周年出荷で益々人気上昇!!

- ◎超極早生で播種～収穫まで80日。
- ◎各地の適作の栽培で周年出荷に最適。
- ◎暖地、中間地はハウスで年3期作の高収益。

紅こだま 栽培の要点

特性

- 草勢は強く、着果性の安定した赤肉の小玉です。果実は2kg内外、高球形の縞皮で縞は細く地色は濃緑です。
- 果肉は濃い紅桃で糖度は高く、13度内外で肉質は軟らかく、食味は極めて良好です。
- 果皮はうすく、3mm内外で、可食率が高くて好評です。
- 栽培は大玉種に比較して元肥、追肥共チッスは少なくして ツル、葉の生育を硬く管理することが必要です。

各適作型の栽培ポイント

◎3～4月収穫の促成栽培

1. 定植は収穫予定の90日内外前に定植する。
2. 日照の少ない低温期であるので、大苗を定植し株間を広くする。
3. 地温は18～20℃前後になるような株間と整枝方法を実施する。
4. 換気は少なくして保温につとめ、ハウス、トンネル内の過湿はさける。
5. 土壌水分は40%内外が良い。

◎5～6月収穫の普通地 早熟栽培

1. ハウス+大型トンネル 播種～収穫まで135日内外となる大苗を定植するとよい。
2. 3～4月の日照量の少ない時期の整枝はやや早目にする。
3. 着果後の換気に注意し、昼間は35～40℃の温度管理をする。

◎7～8月収穫の栽培

1. 栽培期間は最も短く、定植～収穫まで80日内外です。
2. 3～4月収穫後の二期作栽培の場合は、4～5月定植で6～7月収穫となる。
3. 7～8月収穫は定植後40日内外より着果させるとよい。

◎10～12月収穫の抑制栽培

1. 8～9月定植で若苗を定植し初期の生育を良好にする。
2. 日照量が少なくなる時期であり、授粉時期よりトンネルを被覆し昼間の温度を35～40℃を保つようにする。
3. 抑制栽培で年内収穫とする。

◎1～2月収穫の超促成栽培

1. 暖地でのハウス地這のカーテン+トンネル栽培です。
2. 着果時期は11～12月で、株間を広く定植し着果時期より昼間保温と換気で湿度をさげる。
3. 着果後45～50日で成熟となる。

作型	月別	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
3～4月収穫の促成栽培		○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5～6月収穫の早熟栽培				○	○	●	●	●	●	●	●	●	●
7～8月収穫の盛夏栽培						○	○	●	●	●	●	●	●
10～12月収穫の抑制栽培		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1～2月収穫の超促成栽培		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○